

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承及び健康福祉増進の進歩普及に貢献し、もって地域活力のための具体施策を取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援並びに厚生労働省認定の健康増進施設の活用による地域住民の生涯教育の機会提供など健康福祉の向上に寄与することを目的とする。

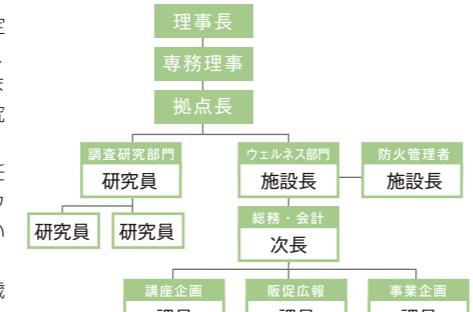
（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
 - (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
 - (3) 身体の健康づくり講座及び心の健康づくり講座の企画・運営
 - (4) 前3号の事業にかかる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
 - (5) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
 - (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

組織・運営の概要

組織は2部門によって構成されています。調査研究部門では定款に基づき大学やその他の機関と共に調査・研究活動を行い、奈良ゆかりの伝統芸能である能などの行催事の支援をしています。また、常任の研究員のほかに外部から上席研究員、客員研究員を招き、プロジェクトごとに連携した活動を展開しています。奈良ウェルネス倶楽部はカルチャー部門を担当、施設の統括責任者である施設長ほか各職員が企画立案から日常の講座運営、カウンターでの対応まで、外部の委託職員とともに業務に当たっています。カルチャー事業の性格上、原則として5月の連休、盆休み、歳末から新年にかけての休日以外は、土・日も朝から夜の9時まで施設は常時稼動しているため、ローテイションを組み担当者ごとに業務に取り組んでいます。



当公益社団法人への寄附のお願い

当公益社団法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当公益社団法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当公益社団法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。
■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のホームページ(<https://www.nta.go.jp/>)をご確認ください。

寄附については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営法を指定できます。

- (1) 通常寄附金
当公益社団法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。
- (2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。
(注)金額のほか金額以外の財産権(有価証券等)を含みます。
なお、これらの寄附については当公益社団法人のHP(<https://www.s-s-l.jp/>)をご参照ください。

寄附のお振込先口座

南都銀行 本店営業部 普通預金 No.0355495

振込先名義：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ 理事長 尼崎勝己

お問い合わせ・お申し込み先

当公益社団法人 TEL : 0742-49-0861 E-Mail : info@s-s-l.jp



公益社団法人
ソーシャル・サイエンス・ラボ
SocialScience Lab

発行：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ
<https://www.s-s-l.jp/>
お問い合わせ先 info@s-s-l.jp

【事務局】
〒631-0823
奈良市西大寺国見町1丁目7番22号
TEL: 0742-49-0861(代)

2019年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

支援事業	英語パフォーマンス甲子園	2-3
プロジェクト	伝統的空间を支える匠の技を未来へつなぐ	4
プロジェクト	安堵町 地域振興への支援	5
連携事業	大学・その他の機関との連携	6-7
カルチャー事業	奈良ウェルネス倶楽部	8-13
about SSL	理事・新入社員紹介、入会案内	14-15



英語パフォーマンス甲子園

当公益社団法人は、年に一度日本文化発祥の地・奈良で開催される、高校生が主役の大会「英語パフォーマンス甲子園」を共催することで、次世代の青年の育成に取り組んでいます。



アイデンティティに基づき 「持続可能な社会に向けた アクションプラン」を世界に発信する



英語パフォーマンス甲子園は、高校生が自らの文化や伝統、環境や習慣を探求しながら持続可能な社会に向けたアクションプランを考え、国際言語である英語と言語を超えるパフォーマンスで世界に発信する大会です。

グローバル化が進展する社会においては、文化的背景を異にする多様な人々の交流が広範囲にわたって展開すると予想されるため、先を見通すことがより一層困難となります。こうした不確実性の時代には、自らのアイデンティティを確立しながら、自分が本当に伝えたいことを伝え、相手の伝えたいことを的確に受け取ることで信頼関係を築いていくことが必要です。

英語パフォーマンス甲子園は、こうした時代の要請を踏まえて開催されています。この大会を主催する団体として、2015年、「英語パフォーマンス甲子園実行委員会」が設立されました。内閣官房参与(当時)・元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の木曾功氏を顧問、帝塚山大学学長(当時)の岩井洋氏を委員長とし、実行委員会は教育関係者や観光関係者などで構成され、行政(奈良県・奈良市)もオブザーバーとして参画しています。当公益社団法人も、理事長が委員として参画するとともに、事務局も当公益社団法人内に設置することで、大会及び実行委員会を支援しています。

奈良を中心に関西の高校が出場 第2回大会を開催

一昨年の第1回大会に引き続き、2019年9月8日(日)、奈良県大和郡山市のDMG MORI やまと郡山城ホール(大ホール)にて、「第2回英語パフォーマンス甲子園」大会が開催されました。

大会理念は「ESD一つなぐことはうみだすこと」でした。持続可能な未来や社会につながる人材を育むというESD(Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)の趣旨に鑑み、この大会をESD実践の場とするべく、この理念が採択されました。

大会では、約450名の来場者と来賓の方々のもと、奈良県、大阪府から9校が出場し、多種多様な演目とパフォーマンス(音楽、劇、書道、コント、等)で舞台を盛り上げました。

一方、審査委員長の吉川宗男氏(ハワイ大学名誉教授)、及び、柴尾智子氏(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターシニアアドバイザー)、西島和彦氏(Youth Theatre Japan株式会社劇団運営委員長)、スザンナ・パヴロスカ氏(Kyoto Journal副編集長)の各審査委員により、独創性、コンセプト、表現力、英語力、チームワークの5つの審査基準による審査が行われました。

審査の結果、クラーク記念国際高等学校 大阪梅田キャンパスがグランプリ校(奨学金10万円)に、奈良県立郡山高等学校と奈良県立青翔高等学校の2校が準グランプリ校(奨学金5万円)に輝きました。また、奈良県立平城高等学校が特別賞(しかもろくん賞)を受賞しました。

「英語パフォーマンス甲子園」応援大使 キャラクター任命

今後「英語パフォーマンス甲子園」を全国へ発信するための応援大使として、3匹のひよこのキャラクターが任命されました。ESDの価値観、視点を育てることをこれから成長する「ひよこ」に例えています。第2回大会の来場者に3匹のキャラクターの名前を募集し、応募されたアイデアの中から名前が決定されました。



「カール」意味: culture 「ネイト」意味: naturee 「フュー」意味: future

「ESD」の普及啓蒙を図るべく、「0から学ぶ！ESD新聞」を配布

英語パフォーマンス甲子園実行委員会は、大会理念である「ESD」についての普及啓蒙と出場校の拡大を目的に、「0から学ぶ！ESD新聞」を概ね月1回発行し、これまでの出場校や今後出場が期待される高校等に配布しています。

「ESD新聞」では、「ESD」の目的、必要とされる価値観や視点についての解説をはじめ、地域社会における「ESD」取り組み事例の紹介、各出場校が大会で発信したアクションプランの「ESD」の切り口からの紹介、等の記事が掲載されています。

各高校では、先生方や生徒たちの目につく場所に掲示され、いくつかの高校から「ESDの基本的な考え方が理解できた」「大会への出場を考えてみたい」といった声も寄せられています。



Theme

2

プロジェクト

Theme

3

プロジェクト

伝統的空间を支える匠の技を 未来へつなぐ

当公益社団法人は、日本の伝統的空间を支える匠の技を未来に継承する活動を推進・支援しています。



匠の技を取りまく状況



日本の原風景を形づくる伝統的な建築物や庭園、石垣などの空間。それを支えてきたのが数々の匠の技、すなわち、自然を敬い自然と共に生きながら、自然を生かす技術を磨いてきた職人の努力と英知の蓄積です。しかし、こうした匠の技は、高度経済成長以降の産業構造の変化や日本人の価値観・生活スタイルの変化などにより、その存続に厳しさが増しています。

建築基準法の壁や職人の後継者不足等の問題を抱え、存亡の危機に瀕しているとも言われています。

一方、2019年3月、「伝統建築工芸の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術」が2020年秋のユネスコ無形文化遺産登録に向け再提案されました。しかしながら、その対象範囲は一部の匠の技に限られており、伝統的空间を広くカバーするには至っていません。

当公益社団法人は、今後、伝統木造建築物等の伝統的空间を支える匠の技の普及啓発と、ユネスコ無形文化遺産の登録対象範囲を広げる活動を推進することで、より多くの職人や技術者の活躍の場を増やし、伝統文化の継承や地域の活性化に貢献したいと考えています。

匠の技の普及啓発に向け、フォーラム開催



さて、2020年秋のユネスコ無形文化遺産候補である「伝統建築工芸の技」の普及啓発活動の一環として、8月4日、東京日本橋の奈良まほろば館において、「普請文化フォーラム 2019 平城宮大極殿院の復原から学ぶ～史跡上における復元の法的、技術的手法を探る」を、奈良まほろば館、一般社団法人伝統を未来につなげる会、及び当公益社団法人の主催で開催しました。

このフォーラムは、奈良・平城宮跡歴史公園に復原中の大極殿院にスポットを当て、この復原工事を現在各地で計画されている伝統建築技術と現代の建築技術が融合した建築物への参考とすることで、匠の技の普及啓発を狙いとしたものです。

当日のパネルディスカッションでは、松本浩氏（国土交通省・国営平城宮跡歴史公園事務所所長）、上田忠司氏（株）竹中工務店設計本部伝統建築グループ・工学博士）にパネリストで、津村泰範氏（長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科准教授）にはコーディネーターでご登壇いただき、伝統技術による木造新築復元（復原）工事の経緯やプロセスを紹介、今後の課題、等にも踏み込んでお話しいただきました。



安堵町の偉人

安堵町（2019年12月1日現在：面積4.31平方キロメートル、人口7,392人）は、過去から多くの文化人・偉人を輩出してきた町です。古くは聖徳太子にさかのぼり、太子が斑鳩と飛鳥を馬で通った太子道、休憩のため腰かけたと伝えられている御幸石が現存しています。晩年の住まいであった飽波葦牆宮（あくなみあしがきのみや）が安堵にあったという伝承もあります。また、戦国時代には、筒井氏一族である土豪「中氏」が活躍しました。更に幕末以降、天誅組に加わった、国学者伴林光平と親交があった今村文吾、文吾の甥で奈良県再配置運動を推進した今村勤三、勤三の四男でBCG接種を確立し大阪大学第5代総長を務めた今村荒男と続きます。そして、今村荒男と親交が深かった近代陶芸の巨匠富本憲吉はこの安堵の地で後世に残る名作の数々を生み出していました。



今村 勤三



今村 荒男



富本 憲吉

く学び、それをお客様に伝えることで、お客様がより満足感を持って施設に滞在いただければと願っています。



行灯づくり

ワークショップの企画・運営

安堵町の極楽寺に祀られている「阿弥陀如来坐像」のもと、あかりを灯して世界平和を祈る「あんど祈りのつどい」。そのイベントに併せ、8月5日（月）、地元「灯芯保存会」の協力を得て、行灯の制作体験会とライトアップを企画・運営しました。富本憲吉が作品のモチーフとしていたティカカズラを含む押し花や、安堵町で作られている灯芯や井草を用い、地域住民の方々や海外からのお客さまにも行灯づくりを楽しんでいただきました。



かかしコンテストへの参加

11月23日（土）、「第28回安堵町産業フェスティバル」の1セッションとして開催された「第1回かかしコンテスト」に参加者として出場しました。住民の中に混じって案山子作りを体験することで、地域との交流を深めることができました。



大学・その他の機関との連携

当公益社団法人は、県内の大学をはじめ様々な関係機関と連携し、地域文化や経済の活性化に寄与する活動を提案・サポートしています。

日本ESD学会での発表とサポート

ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) は、人類が発展的に継続的に持続可能な社会を実現するための価値観や行動を生み出す変容の教育のことです。そして、持続可能な社会の構築に資することを目的とし、学校、企業、行政、市民、学生等が立場・分野を超えて協働する場である日本ESD学会が2017年4月に設立され、事務局が奈良教育大学次世代教員養成センター中澤静男研究室内に設置されました。

7月13日(土)、国立大学法人奈良教育大学において「日本ESD学会第3回近畿地方研究会」が開催されました。開催に向けた実行委員会のメンバーとして当公益社団法人の川井徳子専務理事が参画しました。大会当日は、川井徳子専務理事、瀧口仁志研究員が「教育旅行の新たなニーズへの対応 — 奈良でESD教育旅行を実施する意義の考察 —」をテーマとする口頭発表を行い、今井晴菜研究員が「成年者のESD認知度向上へのアプローチについて —『英語パフォーマンス甲子園』からの考察 —」をテーマとするポスター発表を行いました。

また、8月19日(月)、20日(火)、国立大学法人宮城教育大学において「日本ESD学会第2回大会」が開催され、今井晴菜研究員が「ESDを大会理念とする『英語パフォーマンス甲子園』について」をテーマに口頭発表を行いました。

当公益社団法人は、今後もESDに関する研究会・シンポジウム等の開催を企画・サポートするとともに、関係する機関への積極的な働きかけを行ってまいります。



奈良県立大学の実地研修をサポート



10月30日(水)、奈良県立大学にて、来期に奈良県内の諸地域へ実地研修に派遣される予定の1回生などの学生に向けて、当公益社団法人理事の田中俊行が講義を行いました。

田中理事は奈良県立大学に隣接する船橋通り商店街の副理事長を兼務していることもあり、商店街内の実際の取り組みの紹介を交えて、地域コミュニティに新しく入る時の注意点などについてお話しさせていただきました。今後も大学やその他の団体様などから、私たちの知見を活かしていただける機会を創出できるよう、取り組んでまいります。

MMT研究会の開催

◆緊急研究会の開催

7月17日(水)、立命館東京キャンパスにて、緊急研究会「MMT (Modem Monetary Theory; 現代貨幣理論) の経済理論をどうとらえるか」を開催しました。経済理論であるMMT (現代貨幣理論) の主唱者の一人、ステファニー・ケルトン氏(ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授・バーニー・サンダース上院議員政策顧問)をお招きするとともに、松尾匡氏(立命館大学経済学部教授)、井上智洋氏(駒沢大学経済学部准教授)、当公益社団法人の飯田泰之理事(明治大学政治経済学部准教授)に登壇いただきました。本研究会には、内閣官房参与でイェール大学名誉教授の浜田宏一氏に来臨いたしましたとともに、当公益社団法人から川井徳子専務理事が参加しました。



◆第2回研究会の開催

続いて11月4日(土)には、「MMT (Modern Monetary Theory; 現代貨幣理論) の経済理論をどうとらえるか」の第2回研究会をkokoka京都市国際交流会館にて開催しました。スペシャルゲストにビル・ミッセル氏(オーストラリア ニューカッスル大学教授、MMT創始者)をお招きし、松尾匡氏(立命館大学教授)、朴勝俊氏(関西学院大学教授)にパネラーとして登壇いただきました。また、当公益社団法人から川井徳子専務理事、馬場正哲理事が参加しました。



今後も、公認会計士やシンクタンク、研究所等にも呼びかけ、経済の活性化に寄与すると考えられる理論や研究成果について随時紹介していきたいと考えています。

イベント学会での発表

12月17日(火)日本青年館ホテルにて、「ゴールデンスポーツイヤーズと次世代育成」をテーマとする「イベント学会 第22回研究会」が開催されました。第3部で行われた研究発表会では、当公益社団法人の川井徳子専務理事、零石吉隆研究員(兼(株)東北わくわくマルシェ 事業開発担当)が「東日本大震災の長期的支援取組事例からイベントの機能を分析する」をテーマに口頭発表を行いました。

今後も、関連する学会や協議会にて積極的な発表や提言活動を行ってまいります。

船橋通り商店街協同組合をハンズイン型で支援

船橋通り商店街はJR奈良駅から向かって北側の市街地に南北に伸びる商店街です。数少ないながらも個性豊かなお店が多く、奈良県立大学のお膝元にも位置しています。本年度は当公益法人の理事である田中が商店街の副理事長となったことで、商店向けの補助金獲得のための勉強会や賑わいづくりのための婚活パーティーの開催を行いました。来期は大学との連携を意識して活動を行ってまいります。



奈良ウェルネス倶楽部

奈良ウェルネス倶楽部は、民間としては関西トップクラスの規模と実績を有するカルチャー施設です。

2007年4月から、元社会保険庁なら社会保険センター事業を継承し、厚生労働大臣認定「健康増進施設」として「こころ」と「からだ」の健康づくりをテーマに、地域コミュニティの活性化に貢献しています。カルチャー施設としては、約140名の講師陣と約260の講座を常時開設しています。また、施設内だけに留まらず施設外の講座(現地講座)や出張講座、講師派遣なども手掛けており、社会貢献としてボランティア活動にも力を入れています。



年間講座開講状況

■受講者件数 <2019年度>

期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2019年度	2,437	2,401	2,370	2,347

■講座&講師数

	講 座 数	講 師 数
2019年度	265	144

■年間講座開講状況

講座分類	教 室	受 講 者
からだの健康づくり講座	75	716
こころの健康づくり講座	190	1,631
合計	265	2,347

からだの健康づくり講座			
講 座 名	年 間 教 室 数	年 度 新 規 講 座	年 間 受 講 者 数
1 ソフトエアロ	1	22	
2 気功太極拳	8	91	
3 健康体操	3	32	
4 自彌術(じきょうじゅつ)	1	14	
5 ジャズ体操	1	10	
6 リラックス体操	1	5	
7 ジャズ健美操	1	13	
8 熟年ジャズ体操	3	42	
9 身体スッキリ骨盤体操	1	7	
10 さわやかリズム体操	1	11	
11 健康貯筋教室	1	12	
12 ヨガ	5	37	
13 ダイエットヨガ&ヒーリング	1	10	
14 ママヨガ with ベビー	1	3	
15 ピラティス	3	35	
16 健康維持増進室	1	7	
17 生活習慣病予防改善	1	18	
18 チベット体操	1	3	
計	75	2	716

からだの健康づくり講座			
講 座 名	年 間 教 室 数	年 度 新 規 講 座	年 間 受 講 者 数
19 やさしいトレーニング	1	7	
20 男のストレッチ&筋トレ	1	15	
21 卓球	5	52	
22 フラメンコ	2	13	
23 ベリーダンス	2	4	
24 社交ダンス	2	26	
25 ハワイアン・フラ	6	39	
26 バレエ	5	54	
27 フェルデングライス	1	3	
28 腰掛タップダンス®	1	13	
29 タップダンス	1	8	
30 ZUMBA(ズンバ)	1	4	
31 山歩き	4	74	
32 ゴルフ	3	7	
33 ノルディックウォーキング	1	6	
34 ルーシーダットン	1	6	
35 自力整体	1	3	
36 ストリートダンス	2	10	
計	75	2	716

こころの健康づくり講座				
	講 座 名	年 間 教 室 数	年 度 新 規 講 座	年 間 受 講 者 数
1 囲碁		5		34
2 英会話		11		63
3 韓国語		6		40
4 中国語		4		28
5 フランス語		1		5
6 俳句		1		12
7 短歌		1		21
8 川柳		1		10
9 コミュニケーション力アップ		1		9
10 おもしろ仏像講話		1	○	11
11 健康マージャン教室		4		89
12 大人のリコーダー		2		14
13 楽しい朗読		1	○	11
14 ソープカービング		1		5
15 写真		3		32
16 おもしろ数学考房		1		2
17 はじめての古文書		1	○	9
18 カラオケ		10		134
19 懐かしの名曲を愉しむ!		1		9
20 発声専門講座		1		5
21 コーラス		3		47
22 たのしいシャンソン		2		15
23 季節の歌		4		105
24 ジャズボーカルサロン		1		12
25 民謡(ひろみつ会)		1		13
26 詩吟(桂心流)		1		8
27 ボイストレーニング		2		1
28 中高年の「らくらくピアノ®」		2		10
29 大人のピアノ		9		9
30 ギター講座		1		9
31 ウクレレ講座		2		12
32 大正琴		2		9
33 オカリナ		6		52
34 沖縄三線		1		6
35 ハーモニカ		4		30
36 茶道(裏千家)		3		24
37 着つけ		1		2
38 立体ポップアップカード		1		2
39 絵画		2		12
40 裸婦デッサン		1		4
41 水彩画		4		31
42 水彩・詩画		1		8
43 アートで余暇を楽しく		1		11
44 一筆画(一光流)		1		9
45 日本書		1		9

こころの健康づくり講座				
	講 座 名	年 間 教 室 数	年 度 新 規 講 座	年 間 受 講 者 数
46 水墨画		4		29
47 風景スケッチ		3		35
48 パステル画		1		3
49 パステルアート		1		4
50 色えんぴつ画		1		17
51 切り絵		1		6
52 ファミリー書道		1		37
53 筆遊び 楽しみの書		1		6
54 書道		5		36
55 ペン習字		2		22
56 筆ペン		2		9
57 木彫		1		7
58 木版画		1		6
59 和紙ちぎり絵		1		8
60 押し花教室		1		6
61 お笑い福祉士養成講座		1		6
62 戸塚刺しゅう		1		5
63 アートフラワー		1		3
64 パンの花		1		9
65 箱と雑貨のカルトナージュ		1		3
66 グルーデコ		1		8
67 フラワーアレンジメント		1		12
68 ドライ&プリザーブドフラワー		1		10
69 ガーデニング		1		12
70 ミニ盆栽		1		8
71 手編み		4		28
72 手描友禅染		2		6
73 バッヂワーク		3		37
74 洋裁リフォーム		2		32
75 和裁		3		26
76 謡曲仕舞(金春流)		1		14
77 かっぽれ・創作舞踊		1		4
78 奈良一刀彫		1		12
79 仏像彫刻		2		18
80 陶芸		4		8
81 バードカービング		1		6
82 中国茶講座		5		44
83 バードウォッ칭		1		6
84 タロットカード		2		2
85 カリグラフィー		1		2
86 スペイン語		1		

2019年度新設開講講座

奈良ウェルネス倶楽部では、春と秋に新設講座の体験会を開催しています。
時代の流行や伝統文化など、さまざまな角度から新講座を提案、開講しています。



万葉集を読む



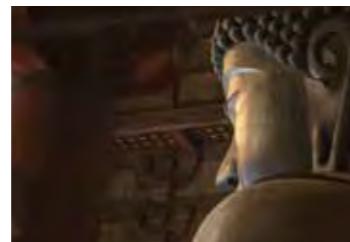
ゆったりヨガ



スペイン語 入門



笑顔の花咲かせま書♥



今さら聞けない！仏像のいろは講座



誰でも吹けるハーモニカ入門



基礎から学ぶタロットカード実践・リーディング



ストリートダンス



歌謡舞いと舞踊小曲



心ウキウキ！お座敷小唄



はじめてのインプロ（即興演劇）入門



楽しいウクレレ

施設外 現地講座

奈良ウェルネス倶楽部の教室は、体育室も含めて10部屋あります。しかしながら、教室内外で実施する講座には限界があります。そこで、アウトドアな講座や専用設備のある講座は「現地講座」として開講しています。



山歩き



ノルディックウォーキング



ゴルフレッスン



写真



バードウォッチング



中国茶講座



風景スケッチ

出張・派遣講座

「いつまでも元気で過ごしたい」、これは誰もが願う事ですが高齢者の場合は特に切実です。超高齢化のこの時代、こころとからだの健康は大きなテーマです。奈良ウェルネス倶楽部では、施設内講座以外にも現地講座を開催し「こころとからだの健康増進施設」として地域に貢献できるよう活動を続けています。しかしながら、奈良ウェルネス倶楽部や現地講座に通えない方、特に高齢者施設にご入居されている方々から「習い事をしたい」との要望も多く、それにお応えするために出張講座にも積極的に取り組んでいます。講師数・講座数ともに関西トップクラスの運営実績があるからこそ実現可能な出張講座です。



ヨガ教室



ハワイアン・フラ教室



書道教室

働き方改革などの政策により、企業や所属団体でライフワークバランスや健康意識の高まり、健康寿命の延伸など、さまざまな取組みがなされています。そんな各々の意識の高まりに対して、奈良ウェルネス倶楽部では、福利厚生やイベント等についてもニーズにお応えした企画を提供しています。

企業・団体への
講師派遣



奈良県教職員互助組合



奈良県年金受給者協会



桜井市商工会

健康づくり教室

Theme

5

カルチャー事業



講座の外部作品展・発表会



第24回仏像彫刻美術展
講師:矢野 公祥、折上 稔史
場所:生駒市芸術会館 美楽来



和紙絵奈良 創作展
講師:小西 恵子
場所:奈良県立文化会館



奈良ウェルネス倶楽部
写真B教室 2019写真展
講師:西丸 昌義
場所:入江泰吉記念奈良市
写真美術館



歌い継ぎたい季節の歌、
ピアノで歌う季節の歌
合同ステージ
講師:中田 悅子
場所:奈良市西部会館 学園前ホール

- たのしいシャンソンコンサート 2019
- カラオケ教室発表会 2019
- 植木絵画サークル 青垣会作品展
- 第33回日本民謡ひろみつ会発表会
- カリグラフィー教室 ミ・タント作品展
- 水墨画展
- ルナ・フローラ展
- 第592回ロビーコンサート「チエリーボンボン」
- エストゥディオ・ロサ第11回発表会

- 講師:ゆうき 芽衣
講師:北沢 麻衣
- 講師:植木 善三郎
講師:藤本 ひでまさ
- 講師:山本 美穂
講師:井上 淑魚
- 講師:玉置 京子
講師:西本 富美子、田中 紀子
- 講師:山本 妃左子、越野 紅美
講師:奈良市西部会館学園前ホール
- 奈良市西部会館学園前ホール
DMG MORIやまと郡山城ホール
- 奈良県立文化会館
奈良市音声会館
- エル・おおさかギャラリー
奈良県立文化会館
- 奈良県立文化会館
奈良市役所
- 奈良市西部会館学園前ホール

(一部、順不同)

講座の館内作品展



ペン習字作品展
講師:大庭 松翠



水彩・詩画 癒しの
お絵かき塾作品展
講師:橋本 正寿



木版画作品展
講師:宮田 渚



水墨画作品展
講師:井上 淑魚

(一部、順不同)

社会貢献事業



落語家の笑福亭學光氏が個人で認定している資格「お笑い福祉士」。奈良県では唯一、奈良ウェルネス倶楽部が2017年10月から養成講座としてスタートし、福祉施設でのボランティア活動を行っています。2019年度は、初となる放課後等デイサービスや医療センターでの活動も実施しました。「お笑い福祉士認定試験」において級を取得した受講生が中心となり、今後益々の活躍が期待されます。

日本マラソンの父 金栗四三展

東京オリンピック2020が掲げるビジョン「スポーツと健康」をテーマに、スポーツを通じた健康増進や地域活性化を促進する目的で、「日本マラソンの父 金栗四三展」を奈良ウェルネス倶楽部1階ロビーにおいて開催しました。日本人として初めてオリンピックに出場し、東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の創設に関わるなど、日本の陸上競技の発展に貢献した金栗四三氏ゆかりの展示品を大勢の方にご覧いただきました。

開催期間:2019年9月14日~2019年10月6日

来場者数:約2,600人



婚活事業

奈良ウェルネス倶楽部は、結婚を希望される方を応援する環境づくりに少しでも貢献出来ればという思いから、奈良県の施策である「なら結婚応援団」に加盟しています。カルチャーコンテンツとコラボレーションした体験型婚活を主催し、婚活事業開始3年目を迎える2019年度にはイベント開催数が30回を超えるました。

11月には婚活事業の取組みを通し、「奈良県職場などにおける多様な交流等応援事業補助金」の支援をいただき独身者を対象としたライフプランに関するセミナーを開催しました。当日は、独身男女34名の方に参加いただきセミナーや交流会を楽しんでいただけました。



2019年度理事紹介



理事長
尼崎 勝己
あまさき かつみ

1958年関西学院大学商学部卒。奈良県卓球界の第一人者で上級公認指導員資格を取得。奈良教育大附中、奈良高、南都銀行チームの卓球部主将としてそれぞれの県大会で優勝。国体、全国大会へは選手として30回余、国際交流大会へも役員・選手として20回余出場。平成元年から25年間県卓球協会理事長を経て現在会長代行に就任。日本卓球協会本部理事、常任理事を6年、評議員を36年間務め、卓球の普及とレベルアップに尽力。永年の功績により奈良市、奈良県、日本卓球協会から数多くの表彰を受け、社会人としては南都銀行各地の支店長、南都地所(株)代表取締役、奈良市自治連合会副会長、奈良西警察協議会会长などを歴任。2013年10月には文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」表彰受章。奈良ウェルネス俱乐部運営委員長兼務。



専務理事
川井 徳子
かわい のりこ

1981年立命館大学(文学部西洋史学専攻)卒業。奈良地方裁判所委員会委員、国立博物館評議員。創業の地である奈良県を中心に、西日本でホテル経営などの観光・宿泊事業、物流事業、不動産事業を幅広く展開しているノブレスグループの代表。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に「不動産は「物語力」で再生する」(東洋経済新報社)などがある。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。2019年12月17日イベント学会にて「東日本大震災の長期的支援取組からイベントの機能を分析する」を発表。主な所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会、イベント学会。



理事
日置 弘一郎
ひおき こういちろう

京都大学名誉教授。鹿児島大学客員教授。日本語ジャーナー学会理事。1972年京都大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学助手などを経て1983年九州大学助教授。2015年より公立鳥取環境大学経営学部教授。2018年4月より現職。専門は組織論・経営人類学。著書に『市場(いちば)の逆襲』(大修館)、『経営学原理』(エコノミスト社2000)『出世のメカニズム』(講談社)などがある。所属学会は、しごと能力研究学会、経営哲学学会。



理事
飯田 泰之
いいだ やすゆき

明治大学政治経済学部准教授。専門は経済政策マクロ経済学。東京大学経済学研究科博士課程満期退学。駒澤大学経済学部専任教師・准教授などを経て、2013年より現職。内閣府経済社会総合研究所客員研究員、財務省財務総合政策研究所客員研究員・同上客員研究員、内閣府規制改革推進会議委員(農林ワーキンググループ座長)、総務省自治体戦略2040構想研究会委員などを歴任。著書に『経済学思考の技術—論理・経済理論・データを使って考える』(ダイヤモンド社)、『昭和恐慌の研究』(共著:東洋経済新報社)、第47回日経経図書文化賞)、『マクロ経済学の核心』(光文社新書)、『これからの地域再生』(編著:晶文社)、「日本史に学ぶマネーの論理」(PHP)など。所属学会は日本経済学会、日本経済政策学会、日本金融学会。



理事
馬場 正哲
ばば まさあき

株式会社地域計画建築研究所主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所(アルパック)入社。取締役計画部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画から都市計画とともにニュータウン計画、市街地再開発事業施設・開発プロジェクト事業、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築計画を担当。技術士、一级建築士、一级造園施工管理技士、再開発プランナー、マンション建替えアドバイザー。(一社)再開発コーディネーター協会、(公社)日本建築家協会、(一財)日本グラウンドワーク協会に所属。著書:都市再生・街づくり学~大阪版・民主導の実践~(㈱創元社(大阪市街地再開発促進協議会編・共著))などがある。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。



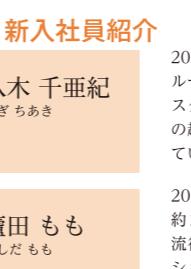
理事
岩井 洋
いわい ひろし

帝塚山大学文学部教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年より現職。日本宗教学会理事、地域デザイン学会特命担当理事、奈良地域デザイン研究所理事、奈良シニア大学学長。専門は、宗教社会学、経営人類学。著書に『キャリアデザイン』(共著、弘文堂)、『アジア企業の経営理念』(共著、文真堂)、Enterprise as an Instrument of Civilization (共著、Springer)、Globalizing Asian Religions (共著、AUP)などがある。所属学会は、日本宗教学会、初年次教育学会、地域デザイン学会、国際宗教社会学会、韓国日本近代学会など。



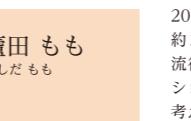
理事
田中 俊行
たなか としゆき

2005年同志社大学文学部美学藝術学科卒業。大学在籍時には、華道史といけばなの定義についての研究を行う。大学卒業後は、野村證券株式会社にて8年間にわたり、地域優良法人やそのオーナーなどに対し、新規開拓営業を中心として金融商品や不動産、企業買収など幅広い資産管理の提案業務に従事。2013年に野村證券を退職後、2016年まで一般財團法人池坊華道会において池坊に所属する400支部14000名の先生方が個人で運営するいけばな教室への運営サポートを行う。2016年から自身の両親が運営するいけばな教室を引き継ぎ、流派内の同世代では最も多い100名弱の門弟を抱えて活動している。



◆新入社員紹介
八木 千亜紀
やぎ ちあき

2020年2月より奈良ウェルネス俱乐部勤務。損保会社のカルセンターや営業事務等を経験し、前職は約3年間カルチャースクールでの業務に携わってきました。当俱乐部が地域の皆様の趣味や遊びの場として、楽しく魅力的な施設になるよう努めています。



八木 千亜紀
やぎ ちあき

2020年2月より奈良ウェルネス俱乐部勤務。大学卒業後、約2年間一刀彫の絵付け業務に従事。様々な伝統文化や現代の流行への理解を深め、受講生や講師の方々とのコミュニケーションを大切に業務に取り組みながら、一生懸命頑張りたいと考えております。



＜活動・研究内容＞
まちづくりの根本は、地域が健全に地域を統治(ガバナンス)する意識と仕組みができていることだと考えます。かつての日本には合議による地域運営が培われていたといわれます。しかし、明治維新のグローバル化と中央集権、敗戦による民主主義という混乱も含めて、地域の主体性が曖昧模糊となり、健全な国家の土台が揺らいで久しい。今日漸く、官から民へ、市民が地域を担う時代が求められるようになり、このことも混迷の課題です。大事なことは、ネットワーク型まちづくりの仕組みを息づかせることと考え、生命体のシステム(三つの系)をまちづくりに構築することを実践的に考えています。①神経系:地域自治の体制を構築/自治会等の再生/市民の自覚/行政の改革(アートリーチ)②免疫系:ネットワークの構築/多様な活動の連携・情報の共有/学習機会の共有③中枢系:地域理念の堅持/構想をもつ/「創造」の再生(万物生成、創造変化、自然、創造化)する:列子「周穆王篇(しゅうむうくおうへん)」を目指しています。

＜活動・研究内容＞
地域社会への貢献活動としては、「五條市地域・産業ブランド推進協議会」の座長をつとめ、同市における地域商社の設立を支援している。また、地域社会貢献に関する研究活動として、世界や日本における奈良の歴史文化的位置づけを明らかにする「奈良学」研究を推進するとともに、産官学が連携する研究プラットフォームとして「帝塚山経営人類学研究会」を主宰している。特に「奈良学」研究においては、未完成のまま計画が中止された「未成線」である、「五新線」(五條市内)の歴史学的研究と、その産業遺産としての利活用についての実践的研究をすすめてきた。さらに、ESD(持続可能な発展のための教育)を基本理念とする、高校生のための大会「英語パフォーマンス甲子園」の実行委員長をつとめ、日本の伝統文化を世界に発信できる若者の育成を支援している。

＜活動・研究内容＞
私は日本文化の将来にわたる持続維持を研究テーマとしています。日本の伝統芸能の多くは生活文化に根付くものがほとんどです。仮供花より始まったとされる日本のいけばな文化はバブル前に門弟数が最盛期を迎え、その後は減少の一途をたどっています。私は現在、流派内の同世代では最大の門弟数を抱えていますが、そのような環境にあるからこそ、いけばなをどのようにして今後の社会の中で持続維持可能な存在にしていくことができるか日々考えております。例えば、いけばな教室の運営という点において、教室のウェブページや独自のチラシなどを持っていない教室が多く、広報手段の面だけを見ても他の業界では普通であることがこの伝統芸能の世界では取り入れられていないことが散見されます。私としては、補助金などの活用を一例として日本文化の裾野である教授者を絶やさないように持続維持を図ること、日本文化に内在する美学や哲学を抽出しそれをAI全盛の現代社会に活用していくことを行なっていきたいと思っています。

◆入会案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。会員費は以下の通りです。

- 個人正会員 一口 10,000円、一口以上
- 団体正会員 一口 10,000円、三口以上
- 賛助会員 30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいよう、よろしくお願い申し上げます。
なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。
(お問い合わせ)TEL:0742-49-0861